

第39回絵手紙友の会全国大会in大阪

募集
2025年度
友の会会員限定

2026年5月27日(水) 17:00~20:30(メイン会場)
メイン会場/リーガロイヤルホテル大阪
サブ会場/日本絵手紙協会 大阪事務所

おいでよ!
大阪

全国から友の会会員が集う、年に一度の交流会。懇親会や特別企画の他、大会は夕方からですので日中は自由にスケッチや観光もお楽しみいただけます。残席限りのため先着順です。ご案内を見逃していたかたは2月号60-63頁をご覧ください。皆さまのお越しをお待ちしています。

*友の会会員限定イベントのため、2025年度の絵手紙友の会に入会されていないかたはお申込みいただけません。
*残席限りのため満席の場合はご容赦ください。



大阪城



通天閣・新世界



リーガロイヤルホテル大阪

日本絵手紙協会より

ご寄付いただきありがとうございました

本誌2025年10月号同封の「ご寄付のお願い」にご賛同くださいました皆さまより、たくさんのご寄付や温かいお気持ちをお寄せいただきました。事務局一同、心より感謝申し上げます。皆さまのお名前と寄付金額については6月号にて改めてご報告させていただきます。

小池邦夫の「絵手紙を100年残したい」という願いと、皆さまから託された絵手紙への思いを次世代に繋ぐため、これからも各種活動の充実に取り組んでまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

一般社団法人 日本絵手紙協会



次号予告 濱田庄司

80	79	78	77	76	74	72	70	68	67	62	66	65	64	61	48	47	28	26	24	22	14	13	10	06	05	04	巻頭	
『月刊絵手紙』定期購読のご案内 ご注文方法	『月刊絵手紙』定期購読のご案内 ご注文方法	「絵手紙友の会」からのお知らせ 編集後記	日本絵手紙協会へのアクセス	ボランティア部からのお知らせ	日本絵手紙協会・推薦教材	栄村国際絵手紙タイムカプセル館だより	小池邦夫絵手紙美術館ニュース	投稿の募集要項	あなたの街の絵手紙情報(展・体験)	〈受講生募集中〉講座のご案内	〈日本絵手紙協会からのお知らせ〉	◎兼岩幸恵の小さくても一歩 似ていると言われたら? ◎前野郁子の実のように咲くように 「絵手紙大学で自分の学びを深める」	◎通うたのしみ、学ぶワクワク! 「絵手紙教室 講評拝見」	節気を感じて「瑞々しい暮らし」 SDGs できることから始めよう! 展覧会のご案内	自由絵手紙/なんでも100字/活動報告 木もれ日「笑いは潤滑油」 太長根英子	◎小池邦夫の絵手紙教室 「小池邦夫の実験ノート」	読者投稿ひろば	essay アーサー・ビナード	手紙のヒント 中川越	柳宗悦の眼に学ぶ 白土慎太郎	『月刊絵手紙』ワークノートによせて 拝見あの人の「ノート」	ことばの旅	登坂和雄の一語一絵(歩)	自分で光れ ことば磨き塾(主宰 村上信夫さん)	特集 『月刊絵手紙』ワークノート かけば「自分」が見えてくる	山田喜代春の詩画世界	古拙微笑	もくじ

月刊絵手紙 2026年4月号

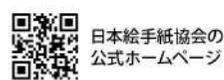
出版記念展のご案内 **阿部祥子絵手紙展「どんどん絵手紙！」**

阿部祥子さん初の著書の出版を記念して展覧会とギャラリートークが開催されます。ぜひお越しください。

大阪 会期：4月3日(金)~4日(土)
会場：大阪・絵手紙ホール(大阪事務所/地図は77頁)
午前11時~午後4時(最終入場は終了の30分前まで)
入場無料：どなたでもご覧いただけます。
*新刊本の詳細は58頁、出版記念オンライン講座は63頁をご覧ください。

参加料 無料

阿部祥子さんによる
ギャラリートーク(20~30分程度)
4月3日(金)
①11時30分~②14時30分~
*申込み不要、どなたでもご参加いただけます。
*トークは各回とも同じ内容です。
*座席はありません。基本的には立ち見になります。

日本絵手紙協会の
公式ホームページ



「自分で光れ」——小池邦夫が自分を鼓舞したことをタイトルにした連載。小池が生涯を「手紙書き」として生きたように、独自の道を歩むプロフェッショナルにお話を伺います。

スペシャリスト
インタビュー

お話 「こけし舞臺」主宰 村上信夫さん インタビュー 構成 嵐山ゆりか



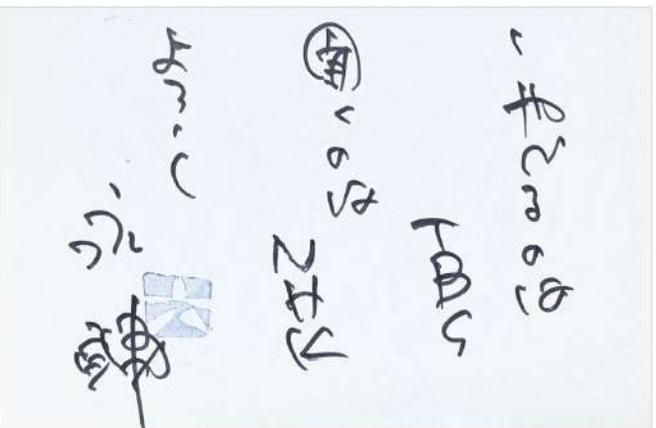
©石田美菜子

NHKの朝の番組「おはよう日本」やNHKラジオの声として活躍した村上信夫さん。57歳でNHKを退職して以来、こけしをテーマに全国各地で講演を行ない、笑顔を届けています。人を傷つける「武器」とは「を」、ポジティブな気持ちにさせる「楽器」とは「に」に言い換える達人・村上さんに、元気が出るこけしについて伺いました。

——村上さんは「嬉しいことばの種類まき」をテーマに活動されています。村上さんがもらって嬉しかったことばはありますか

僕には、恩人がいるんです。それは永六輔さん。僕が「おはよう日本」というニュース番組で、トキの赤ちゃんについてのニュースを読もうとしたときのことです。原稿には、「トキが一羽死にました」と書かれていたのですが、そのとき僕は、死んだ

ということばを使うのを冷たく感じて、「新潟のトキの赤ちゃんが「一羽亡」くなりました」と読んでいました。アナウンサー



「しゃべるのはTBS。聞くのはNHK」と書かれた永六輔さんからの手紙。当時永さんはTBSでの仕事メイン、村上さんはNHKのアナウンサー。君の番組を聞いているよ、という永さんの流のメールだと感じました（村上さん）

は、原稿に書いてあることば通りに読まない、ものすごく叱られます。NHKに限らず放送の現場では、動物は「死んだ」、人は「亡くなった」という不文律があります。だからデスクだけでなく、局内中から叱られて。家にお叱りのはがきまで届きました。

四面楚歌で僕が落ち込んでいたころ、永六輔さんがNHKに出演される機会があったんです。永さんの『大往生』という本がヒットして、ゲストとして番組に出演されたときのことです。番組の収録のときに、「先日トキが亡くなった」というニュースがあった。（その表現が）とっても嬉しかったと言ってくれました。永さんは、生きとし生けるものすべてが同じ命、という気持ちだったんだと思います。僕は嬉しくて、永さんに手紙を出したところ、すぐに返事をくれたんです。そこには「トキは亡くなったと呼ばう会 会長 永六輔」と書いてありました。本当に嬉しかったです。

——永さんからのお手紙、素敵ですね

永六輔さんから、その後も何度かはがきをいただきましたが、だいたい2行だけの短いことばでした。永さんは筆まめで、一日に50通くらいはがきを書いていたそうです。長い文章よりも、短い方が伝わるように思います。たとえば料理番組でも、難しいことばで長く説明されるよりも、ひとこと「おいしい！」と言われた方が、おいしさが伝わりますよね。

——他にも思い出に残る

お便りはありますか

祖母はしょっちゅうはがきをくれましたね。忘れもしないのは、88歳で亡くなる前にくれた最後のはがきです。僕がテレビに映る様子を見て「おまえのインタビューはなっていない。相づちは、うん」じゃなくて、「はいだ」という叱責。祖母の名前は「きく」でしたから、名は体をあらわすのでしょうか。僕に「聴く」姿勢を教えてくださいました。



桑原淳子(69歳・岡山)
初めて作ったこたつカバー、孫の代まで使ってもらえるかなあ。



山下紅美子(愛知)
陶芸が趣味の友人から「いつか高値がつくから」とプレゼントされたけど……100年後?



富田弘子(神奈川)
孫を絵付けしました。100年後にはどんな100歳のおじちゃん?



久留米由美(千葉)
あわてん坊の子孫が「お宝鑑定」に出したりして……。



富田和子(兵庫)
母が愛おしそうに撫でていた。受け継がれて我が家代々の宝物になるといいな。

読者投稿

かいて、送って、みんなでおしゃべり 

ひろば

テーマ「100年後にはお宝です」

100年の時が経ったら、時が経っても、みんなを笑顔にするお宝いっぱい

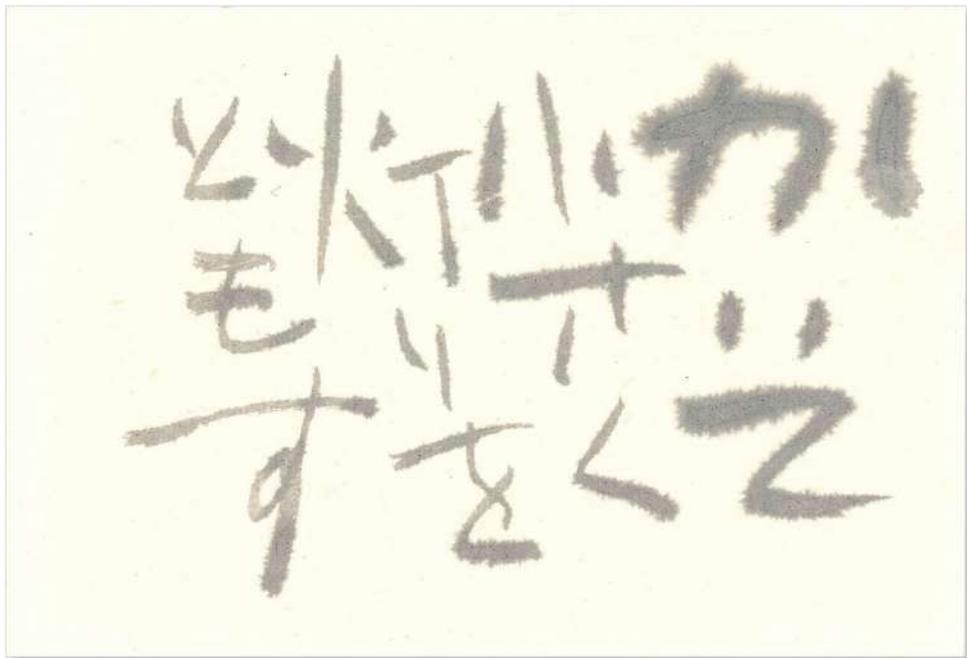
・自由絵手紙 ・なんでも100字 ・活動報告



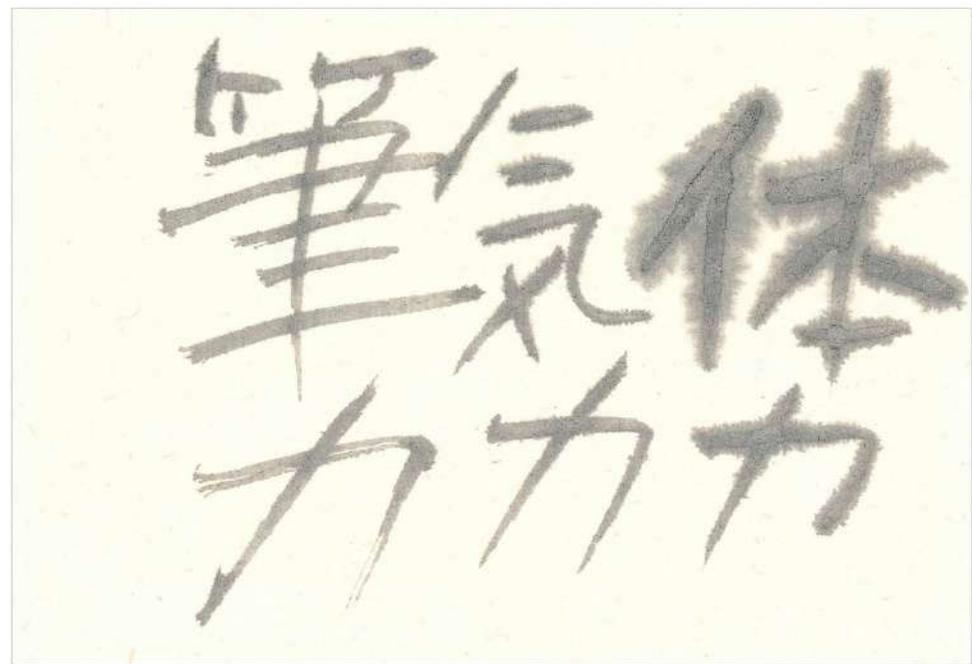
鴨川悦子(福岡)
貝の内側に和紙を貼り、サークルの皆さんと大切なものをかきました。楽しかったその思い出も残したい。



宮川真由美(滋賀)
子孫繁栄を願う土偶を作りました。庭に埋めようか?



いずれもハガキに筆墨



誌上レッスン

初心から学ぶ『へたでいい へたがいい』

絵手紙教室

月刊誌を使って好きな時に好きな場所で学んでいきましょう

こいけ・くにお

絵手紙の創始者。1941年(昭和16)愛媛県松山市生まれ。19歳より絵手紙をかき始め、「へたでいい へたがいい」をモットーに絵手紙文化を広める。その活動が評価され、東京都狛江市初の名誉市民に選ばれるほか、文化庁長官表彰など受賞も多数。2023年8月31日82歳で永眠。